

令和4年度

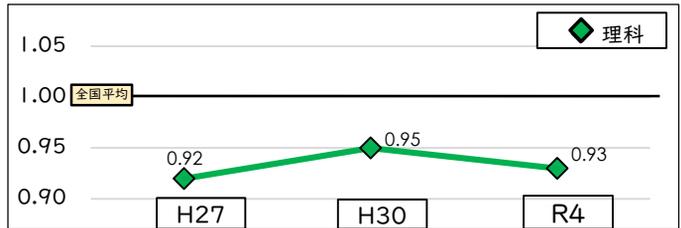
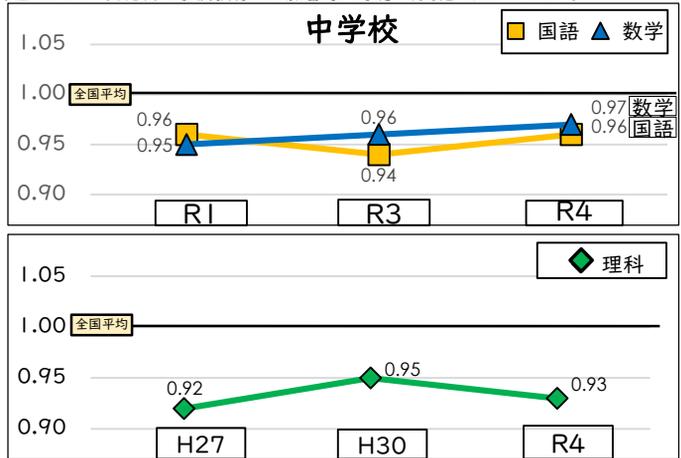
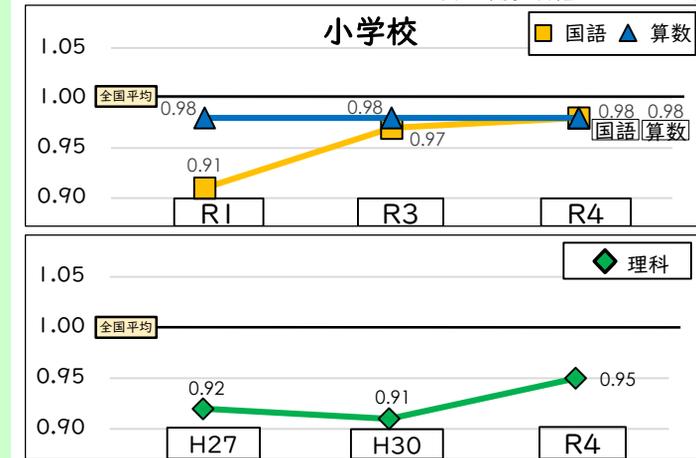
全国学力・学習状況調査の結果について

「令和4年度全国学力・学習状況調査」は、令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童、中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒を対象として、国語、算数・数学、理科の3科目で「教科に関する調査」「質問紙調査」が行われました。

◆教科に関する調査の結果◆

○今年度の平均正答率

※全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。
 ※小学校理科、中学校理科における過去2回分は、平成27年度、平成30年度に実施されていました。
 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる状況及び学校教育への影響等を考慮し、実施されていません。



平均正答率の対全国比について、中学校理科においては前回調査と比較して下降したものの、その他の教科については全体的に着実な改善傾向にあり、全国との差は縮まりつつあります。しかしながら、依然として全国水準には達しておらず、さらなる教育指導の充実が必要です。

○今年度の問題より正答率が低かった問題（一部抜粋）

【小学校理科】問題3（4）「エネルギーに関する問題」（正答率 大阪市30.2% 全国35.1% 全国との差4.9ポイント）

【問題】
はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるのか。

たかしさんたちは、次のような実験をしました。

【方法】

固定した温度計
空きかん

- ①同じ種類、同じ大きさの空きかんに色をぬる。（黒色、赤色、青色、白色）
- ②それぞれの空きかんに、同じ量の水を入れ、温度計をとりつける。
- ③はね返した日光をかんにあて、0分、20分後、40分後のかんの中の水の温度をはかる。

【結果】

〈かんの色による水の温度の変化〉

かんの色 \ 時間	0分	20分後	40分後
黒	24℃	28℃	32℃
赤	24℃	27℃	29℃
青	24℃	27℃	30℃
白	24℃	25℃	26℃

【問題】に対するまとめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。

はなこさん

(4)はなこさんが、下線部のようにまとめたわけを上の【結果】を使って書きましょう。

【正答例】
 黒色のかんの水の温度は、40分後には32℃で、ほかの色のかんの水の温度よりも高いから。
 ※正答の条件として、結果のうち、「①黒色の缶（またはそれ以外の缶の色）」「②時間」「③水の温度」「④水の温度の比較」の全てを記述していることが必要
 <誤答例>
 ・「黒色のかんの水の温度は、ほかの色のかんの水の温度より高いから。」（条件②と③について記述されていません）

この問題では、実験で得た【結果】を、【問題】の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかが問われています。自分の考えを記述できるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、具体的な数値や分析内容などを結論の根拠として表現できるようにすることが重要です。

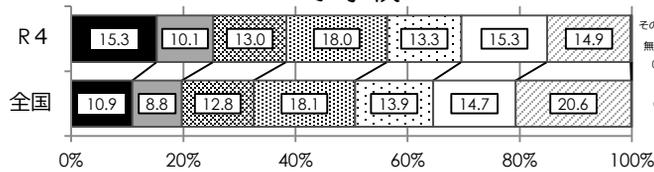


◆質問紙調査の結果◆

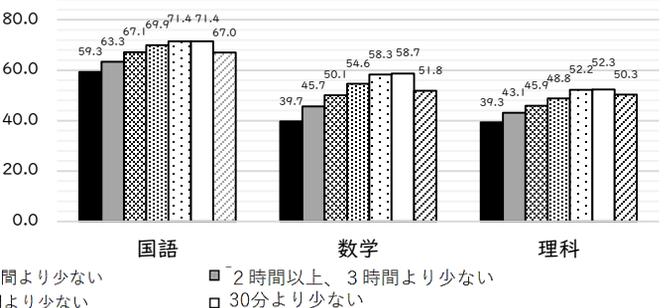
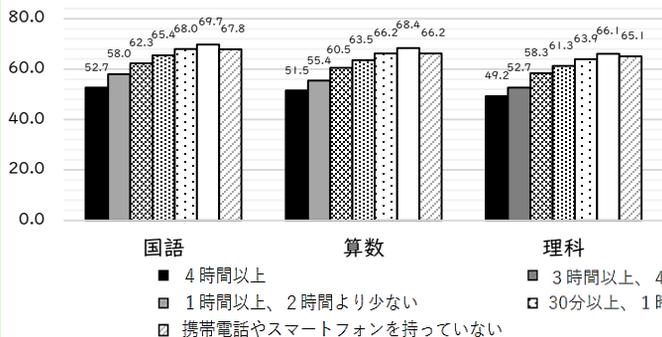
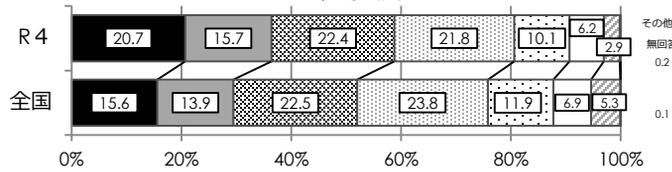
【教科の平均正答率と質問紙調査のクロス集計】※令和4年度からの新規質問項目です。

○普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

小学校



中学校

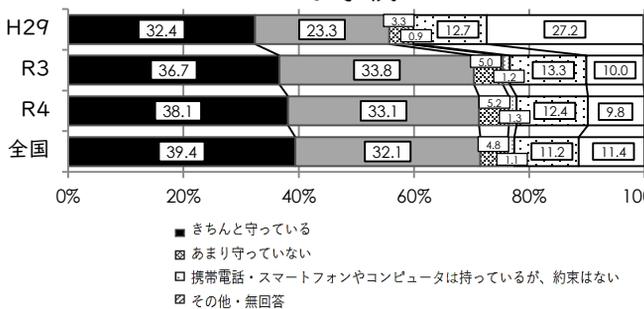


「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」という質問に対して、小中学校ともに視聴時間が短いほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

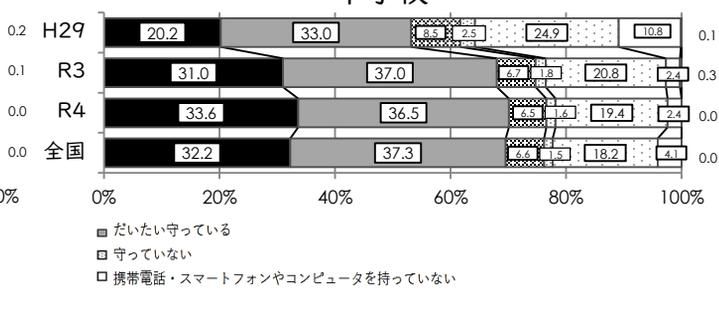
【基本的な生活習慣等に関する質問紙調査】※当該質問項目の調査があった直近3か年を比較しています。

○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

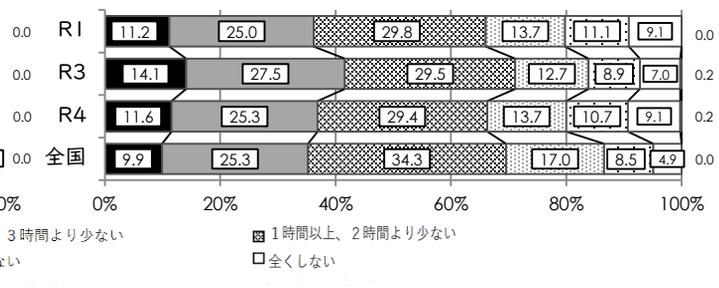
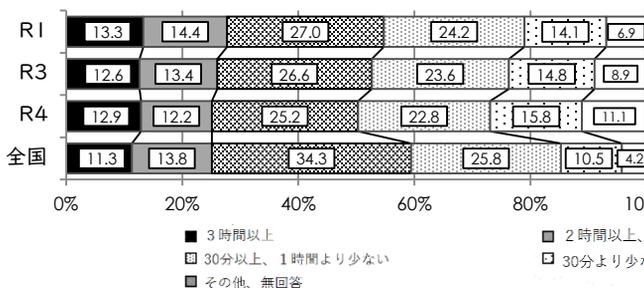
小学校



中学校



○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、肯定的に回答をした児童生徒の割合は、平成29年度と比較すると、小中学校ともに増加しています。
 ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、昨年度と比較すると、小中学校ともに勉強時間は減少傾向にあります。

◆ご家庭でのご協力をお願いします◆

本市では、約7割の児童生徒が携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていると肯定的に回答をしています。しかしながら、1日当たりの動画視聴の時間は小中学校ともに長い傾向にあり、一方で平日における学校の授業時間以外の勉強時間について、小学校では約3割、中学校では約2割の児童生徒が「30分未満」となっています。携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしている時間と教科の平均正答率との間には関係があります。基礎的・基本的な知識・技能等を確実に身に付けるためには、学習習慣の定着が重要です。携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使用時間、ご家庭での過ごし方等について、お子様と今一度話し合ってみてください。

